



やまぐち ひろき

◆巻頭言 循環器センター長 山口 裕己

2014年3月に昭和大学江東豊洲病院が開院され1年半が経ちました。開院と同時に循環器センターが創設され丹野郁教授率いる循環器内科と私の心臓血管外科が一体となり、一部の先天性疾患とほぼすべての後天性心疾患を有する方々に極めて専門性の高い医療を提供してきました。我々心臓血管外科のスタッフは、私の前任地である千葉県松戸市の新東京病院から私と共に異動し、循環器内科のスタッフは昭和大学の3病院（旗の台、藤が丘、横浜市北部）から貴重な人材を派遣していただきました。毎週月曜日の早朝に合同カンファレンスを開催し、常に内科医と外科医がお互いの最先端の結果と知識を提供しこれらを共有しながらも、互いの独立性を尊重しつつ、患者さんにとって最善の治療を提供することに努めて参りました。



本年2月から今後循環器治療の大きな分野となる経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVR）を開始するために整備していただいた床面積110m²を超える日本最大のハイブリッド手術室も稼動を開始しました。この手術室は単に広いのみならず、手術室の清浄度がNASAクラス1000で設計されており極めてクリーンな高性能手術室です。現在通常の心臓手術もこの部屋で行っておりますが、手術創の感染もほぼ無く順調に経過しています。すばらしい職場環境を整備していただき患者さんにより質の高い医療を提供できるようになりました。集中治療室（ICU）も横幅60mを超える広さを有しており見学に来られる先生方の驚

第20号のトピックス

- 巻頭言 循環器センター長
- 認定看護師紹介②
- 集中ケア認定看護師 —
- 救急看護認定看護師 —



愕と羨望の的です。これら最高の環境を最大限に利用し、地域医療に貢献して参ります。また大学人としての最大の使命である優れた医療人・臨床家を育成することに努め、優れた技量と遺伝子を引き継ぐ次世代のスタッフを育てて参ります。開院以来多くの患者さんをご紹介いただく先生方の期待を上回る結果となるよう精進して参ります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

認定看護師紹介②

ひゃっこく ひとみ

集中ケア認定看護師 百石 仁美



私は、2015年3月の開院時より、集中ケア認定看護師としてICU・CCUで勤務しています。昨年度は、開院したばかりの病院でもあり、呼吸ケアの標準化について、もう一名の集中ケア認定看護師や臨床工学技士と協働しながら推進してきました。今年度は、ICU・CCU内の急性期リハビリテーションに着手し、医師、理学療法士とカンファレンスを開催し、患者さんが日常生活にスムーズに移行できるよう働きかけています。

江東豊洲病院の基本理念・目標に挙げている多職種とのチーム医療は、ICU・CCUでも実践されています。



生命の危機的状態にある患者さんを中心に、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、臨床工学技士が集合し、専門的立場で治療の展望を話し合い、協働し合うことで、安全・安心な医療に繋がっています。その中で、集中ケア認定看護師の役割は、ファシリテーターとして調整し、根拠に基づいた治療とケアの質を向上させることだと考えます。

更に集中ケア認定看護師として、私が大切にしていることは、患者さん、家族の心理的状況に共感する姿勢です。そのためにも、意思決定の場面では、積極的に介入し、患者さん・家族の急性期における悲嘆に向き合い、傾聴、肯定的なフィードバックを継続していくことが重要だと考えます。今後は、家族ケアが差異なく介入できるスタッフの家族支援に対する教育にも尽力していきたいと思ひます。

たけだ かおり

集中ケア認定看護師 武田 かおり



私は、集中ケア認定看護師として、開院時よりICU・CCUに勤務しています。もう一名の集中ケア認定看護師とともに、日々相談しながらより良いクリティカルケアを目指し活動しています。昨年度はICUに特化した人工呼吸器やペースメーカなどのマニュアルを作成し標準化を推進してきました。

今年度は、患者さんの異常を知らせてくれる生体モニタの管理の質の向上を目指し活動しています。活動の場所は、ICUはもちろんですが、一般病棟に関しても、スタッフの協力を得て活動しています。

クリティカル領域にいる患者さんは、時に治療の存続・中止など、重大な意思決定を迫られることもあります。



どんな状況でも患者さん・家族が医療に関する意思決定し、またその決定を支援できるように、正確な情報をわかりやすい言葉で伝え、思いを傾聴するなど、積極的にコミュニケーションを取るように心がけています。ICUだけではなく、その後の生活も見据えて、患者さん・家族が決定した思いを支援することは看護師の重要な役割と考えています。

医療の高度化や複雑化が高まるクリティカル領域では、医療者は各々の専門性を発揮し、患者さんの状態に的確に対応できるように、チーム医療が必要となってきます。私は集中ケア認定看護師として、チーム医療が行えるよう、リーダーシップを発揮し、関連する多職種との連携と協働が図れるよう今後も取り組んでいきたいと思っています。

しのはら だいすけ

救急看護認定看護師 篠原 大輔



「安全で安心な医療、そしてすべての患者さんに笑顔を」そんなモットーを胸に看護師として働き始め15年。その思いを実現すべく、新たなステップアップを目指し救急看護認定看護師の資格を取得し10年。主に救急外来における病態に応じた迅速な救急処置、トリアージの実践を行うとともに、より患者さんへ安全・安心な看護が提供できるよう、急変時対応の演習やフィジカルアセスメントの学習会など、微力ではありますが教育指導やシステムの改善等に従事させて頂いています。昨年当院開院時より昭和大学江東豊洲病院に所属を移しても、変わらぬ思いで活動させて頂けるのは、当院の医療チームスタッフの皆さんに支えられての事です。



「今年度は、急変時に患者さんの命を守る事を目標に、各病棟での急変対応への取り組みに対して、支援させて頂いています。いざと言う時に力が発揮できるように、救急蘇生のトレーニングを企画し指導を行う事はもちろん、医師や看護師をはじめ、あらゆる現場のスタッフが、それぞれの役割について行動できるように、組織の垣根を越えた合同シミュレーショントレーニングを実施しています。また、地震などの災害やテロ対策など、院内の対策チーム活動に参加させて頂ける事を誇りに思い、もしもの有事に備えて啓蒙活

動を行っていききたいと思っています。スタッフの結束力こそが、多くの患者さんの笑顔につながっていると信じております。すべては患者さんの笑顔のために！

いとう きょうこ

編集後記 伊藤 恭子

師走になり、街には華やかなクリスマスのイルミネーションが飾り付けられ、ワクワク感と共に、暮れの押し迫った感じを醸し出しています。

今年は皆さん、どのような一年だったのでしょうか？楽しかったこと、つらかったことなど、3大ニュースを家族や友達と並べてみるのも年末行事の一つとして面白いと思います。私は今年、認定看護管理者教育課程の研修に行かせていただき、看護師として病院経営に貢献するためにはどうすればよいのか、考える機会を得ました。また、自宅の断捨離を行い、やっと部屋の中を自分の描いていたゆとりある空間に近づけることができました。



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38

TEL03-6204-6000 (代表)

発行責任者：新井一成 編集責任者：長谷川真



Showa University Koto Toyosu Hospital